

復興重点戦略 の推進に向けて



2020年9月
南相馬市 経済部

・復興総合計画について

南相馬市復興総合計画 後期基本計画 の策定

- 震災と原発事故からの復旧・復興の進捗と新たな課題に対応するため、今後、南相馬市が推進すべき施策を示した「南相馬市復興総合計画 後期基本計画」を策定。

将来像

みんなで作る かがやきとやすらぎのまち 南相馬
～復興から発展へ～

政策目標

100年のまちづくり～家族や友人とともに暮らし続けるために～

—政策の柱 1—
教育・子育て

—政策の柱 2—
健康・医療・福祉

—政策の柱 3—
産業・仕事づくり

—政策の柱 4—
都市基盤・環境・防災

—政策の柱 5—
地域活動・行財政

復興
重点戦略

①旧避難指示区域の再生

②福島ロボットテストフィールドを核とした新産業創出と人材誘導

重点戦略

①子育て世代に選ばれるまち

②多様な人材が活躍するまち

③健康づくりが盛んなまち

④一円融合²のコミュニティづくり

後期基本計画

復興重点戦略 の主な取り組み方針

- 1 . ロボットをはじめとする先端技術等を強み産業へ育成
- 2 . ロボットの実証実験・導入等の促進
- 3 . 工業基盤の整備と企業立地の推進
- 4 . ロボット関連企業や大学等との連携強化
- 5 . 小中学生のロボット教育の推進と高等教育機関との連携
- 6 . 福島ロボットテストフィールドの認知度向上
- 7 . 研究開発・先端技能育成等基盤技術産業の高度化 など

本方針に基づき、新産業及び人材誘導に向けた各種施策を展開。

成果指標の進捗

施策	施策の指標名	後期基本計画 策定時の現状値	計画策定時から 1年後の状況	令和元年度末 の状況	策定時より 向上・低下等	令和4年度 目標値
ロボット関連産業 等の新産業創 出・育成	2011年以降の立 地企業数（既存企 業の増設含む）	29社 平成30年3月	33社 平成31年3月	36社		40社 以上を 目指す
地元企業の振興	製造業における製 造品出荷額	775億円 平成28年6月	907億円 平成29年6月	907億円		900億円 以上を 目指す

各種施策の展開により、ロボット関連産業等の新産業創出・育成、地元企業の振興は、着実に進展。

・福島ロボットテストフィールドについて

福島イノベーション・コースト構想

福島イノベーション・コースト構想

- 2020年に向けて、福島県浜通り地域に新しい産業を創出する**国家プロジェクト**。
- ロボット・ドローンの研究開発プロジェクトが多数進行中。

【災害対応】



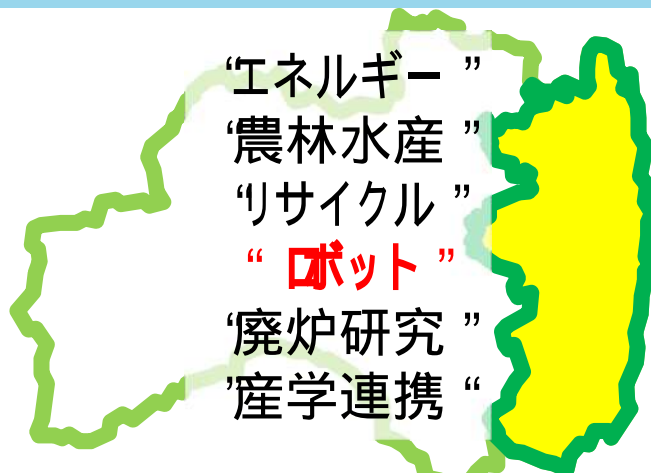
【廃炉・除染】



【線量調査】



【果樹栽培】



浜通りでのロボット研究開発 37件

【ドローン基盤技術】



【生産性向上】



【鳥獣害対策】



【農業】 Tadasu no mori



【測量・

点検】



【物流】



【自動走行・モビリティ】



福島イノベーション・コースト構想の中での位置づけ

- 「福島イノベーション・コースト構想」は、東日本大震災および原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業回復のために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト。
 浜通り地域等15市町村：いわき市、相馬市、田村市、南相馬市、川俣町、広野町、楡葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村
- 福島ロボットテストフィールド等の拠点整備を含めた主要プロジェクトの具体化に加え、**産業集積の実現、教育・人材育成、生活環境の整備、交流人口の拡大等に向けた取組を進めている。**

主な重点分野（拠点・プロジェクト）

廃炉

- 福島第一原発の廃炉を加速するための国際的な廃炉研究開発拠点の整備
- モックアップ試験施設等を活用した機器・装置開発、実証試験



ロボット

- 福島ロボットテストフィールド（世界に類をみない一大研究開発拠点）の整備
- 「World Robot Summit 2020」の一部競技を開催



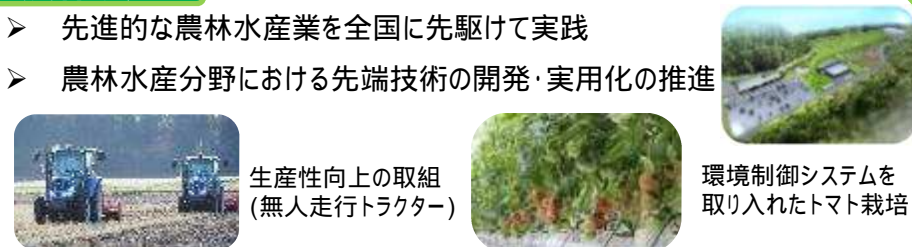
エネルギー

- 再生可能エネルギー等の新たなエネルギー関連産業の創出
- 再生可能エネルギーや水素エネルギーを地域で効率的に活用するスマートコミュニティを構築。



農林水産

- 先進的な農林水産業を全国に先駆けて実践
- 農林水産分野における先端技術の開発・実用化の推進



産業集積

- 廃炉、ロボット、エネルギー等の分野の関連企業を誘致し、拠点と連携した新たな産業を集積。



教育・人材育成

- 初等中等教育から高等教育に至るまで、幅広い構想を支える人材を育成。



生活環境整備

- 公共交通や買い物環境の整備、教育、医療・介護体制の充実等の、生活環境の整備を推進。

交流人口拡大

- 来訪者を促進させるため、拠点を核とした交流人口の拡大に向けた取組を推進。

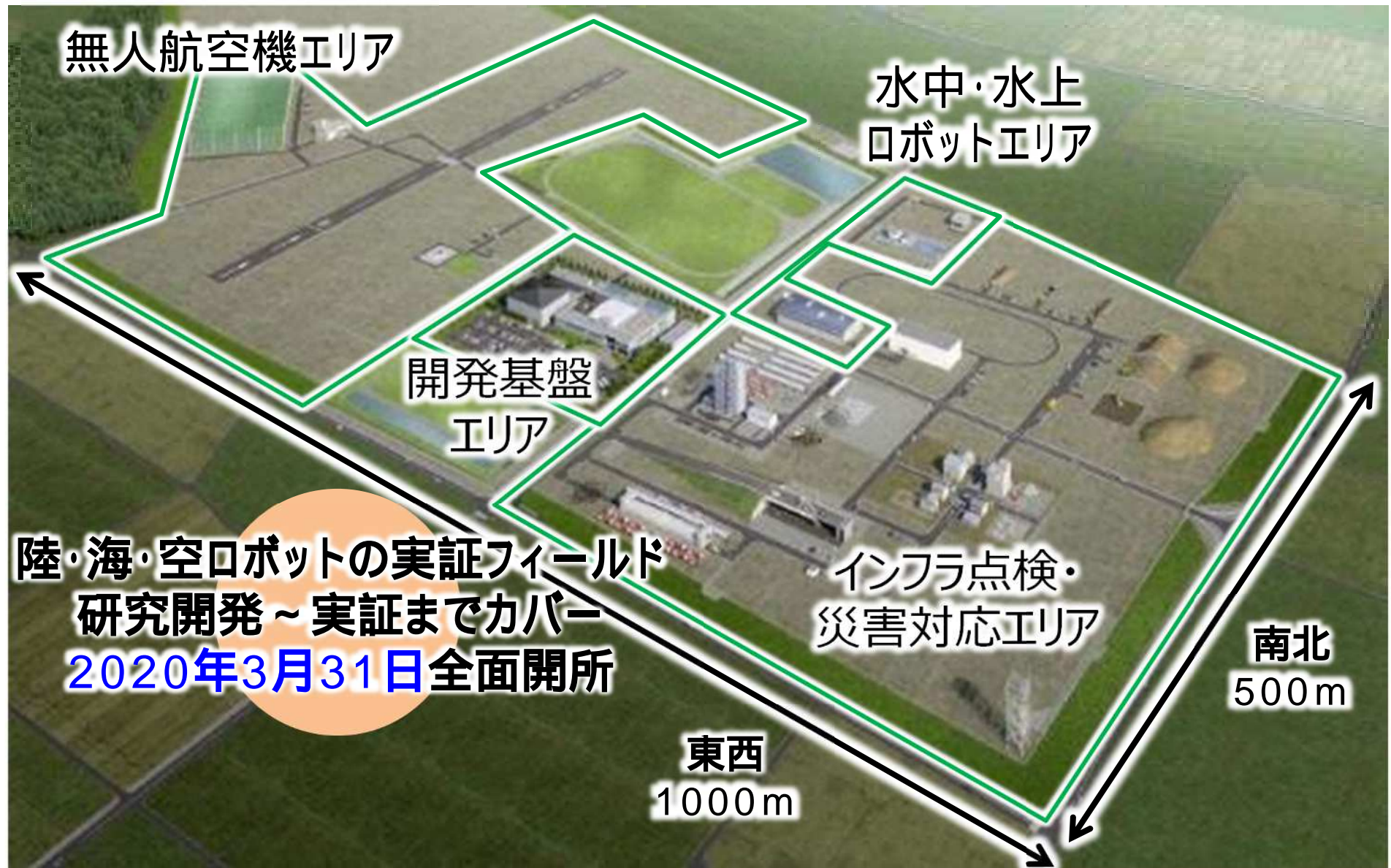
実現のための方向性

福島ロボットテストフィールドの概要

- **陸**の分野では「災害対応ロボット」「自動走行」、**海**の分野では「探査ロボット」、**空**の分野では「無人航空機（ドローン）」が代表的なもの。

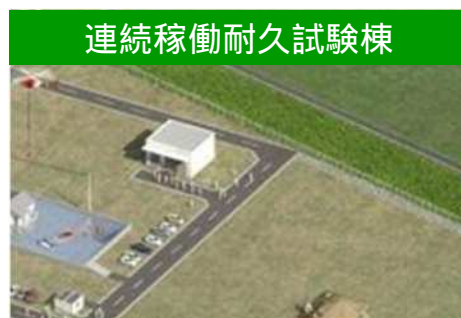
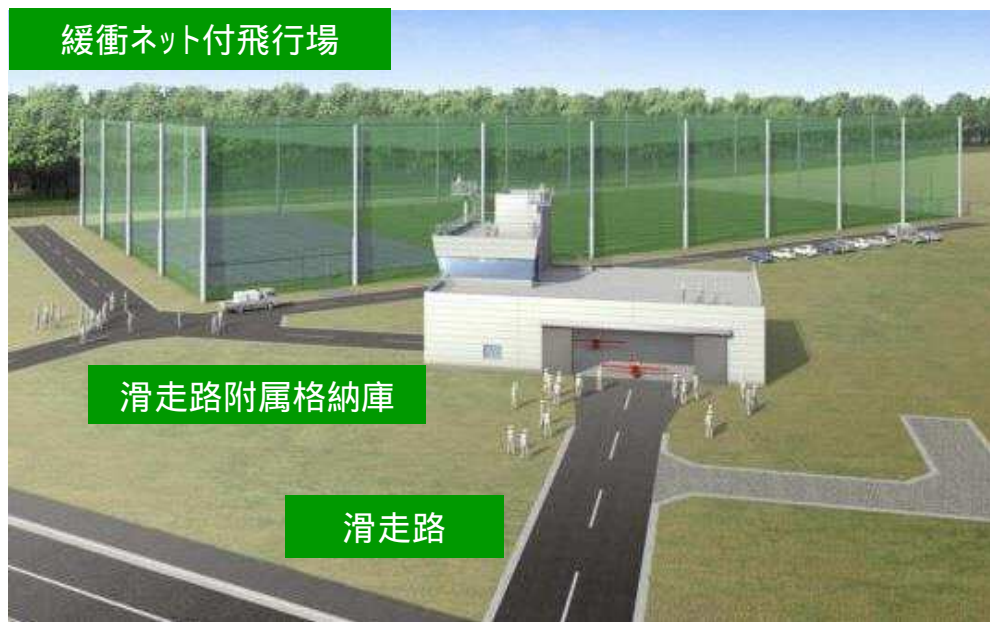


福島ロボットテストフィールドの概要



フィールド事例 : 無人航空機エリア

- 緩衝ネット付飛行場では、**航空法の制限を受けずに自由な飛行試験**が可能。
- 南相馬・浪江にそれぞれ滑走路を設け、その間を通信塔、気象観測装置、レーダーでカバーして、安全に**長距離飛行試験**が可能。
- 官民協議会ロードマップに基づき、**目視外飛行の先行実証**を目指す。



- 緩衝ネット付飛行場：80m×150m×H15m
 - 操縦訓練、夜間飛行
 - 地面の緩衝マットにより、墜落の危険のある高度な試験も可
- 滑走路：L500m×W20m
 - 滑走路両側の安全地帯では、落下試験や不時着試験、物件投下・散布等特殊な試験も可
- ヘリポート：20m×25m

フィールド事例 : インフラ点検・災害対応エリア

- 公共インフラ、工場、市街地での老朽化、事故、火災、爆発、崩壊、土砂崩れなどの様々な状況を再現し、**点検や災害対応に用いるロボットの試験**が可能。
- 試験用プラント及び試験用トンネルが**ワールドロボットサミット**の競技会場となる。



試験用橋梁：道路幅10m×50m×H5m



試験用トンネル：道路幅 6 m×50m



試験用プラント：
10m×12m×H30mの6階建て



市街地フィールド：
ビル2棟、住宅5棟、瓦礫



瓦礫・土砂崩落フィールド：
瓦礫散乱・土砂崩落道路、傾斜地、泥濘12

福島ロボットテストフィールドの活用事例

活用事例

210事例

(2017年9月～2020年8月)



・南相馬市で創業する3つの理由

南相馬市で創業する3つの理由

- 南相馬市は、2011年3月11日の東日本大震災からの復興の兆しが見えている。こうした中、2020年は、福島ロボットテストフィールドが全面開所するなど、ロボット関連の取組みが活性化（ワールドロボットサミット2020福島大会は、2021年に延期）。
- こうした背景を踏まえ、南相馬市は、多様な実証フィールド、地域による伴走支援、事業展開のノウハウといった全国にも例がない事業環境を提供し、各種チャレンジを行う事業者とともに、更なる発展を目指す。



多様な実証フィールド

- ・世界に類を見ないロボットの実験場「**福島ロボットテストフィールド**」
- ・山林、河川、海など多様な「自然環境」での実証実績
- ・「住民理解」の形成

地域による伴走支援

- ・創業、ロボット関連実証、試作品開発などを支える**多様な補助制度**
- × **工業団地、貸事務所・貸工場**の整備
- ・**地元との各種調整**、地元企業等との連携を促進

事業展開のノウハウ

- ・2019年は、市外から**12件の企業**が新たに事務所を設置
- × **年間50件以上**のロボット関連実証の実施
- ・多様な進出事業者の事例の蓄積

【参考】日本一実証試験のしやすい環境を提供 ロボットのまち南相馬

- ドローンなどのフィールドロボットを社会実装していくためには、クローズな実験場のみならず、実環境の中で様々な実証試験を行うことが必要。
- 他方、実環境における実証試験は、航空法等の関連法令の遵守のみならず、そこで生活する住民、各種権利を持つ権利者など様々な利害関係者の理解を得ることが重要。
- 地域ごとの個々のルールが事業者の調整を困難にさせる中、南相馬市は、「ロボットのまち」というまち全体で事業者を歓迎し、関係者間の調整を円滑に進めることが可能。

溜め池

市内の溜池で、水上を滑走路とした飛行艇型ドローンの飛行実証を実施

【相談・調整先】
 地元町内会長 土地改良区
 市農政部局 ○溜め池水利組合

市営団地

市営団地で、住民に受け取り役をしてもらい、自動配送ロボットの实証を実施

【相談・調整先】
 地元町内会長 所轄警察
 市住宅部局 ○協力市民

海岸

南相馬市沿岸を飛行し、海岸公園を着陸地点に、完全自律飛行のドローンの長距離配送実証を実施

【相談・調整先】
 漁協 所轄警察 ○地元サーフィン連盟
 ○県海岸管理者 ○市公園部局

公道

お祭の直後で、交通規制が解除される前の県道を使用し、自動追従ロボットの公道走行実証を実施

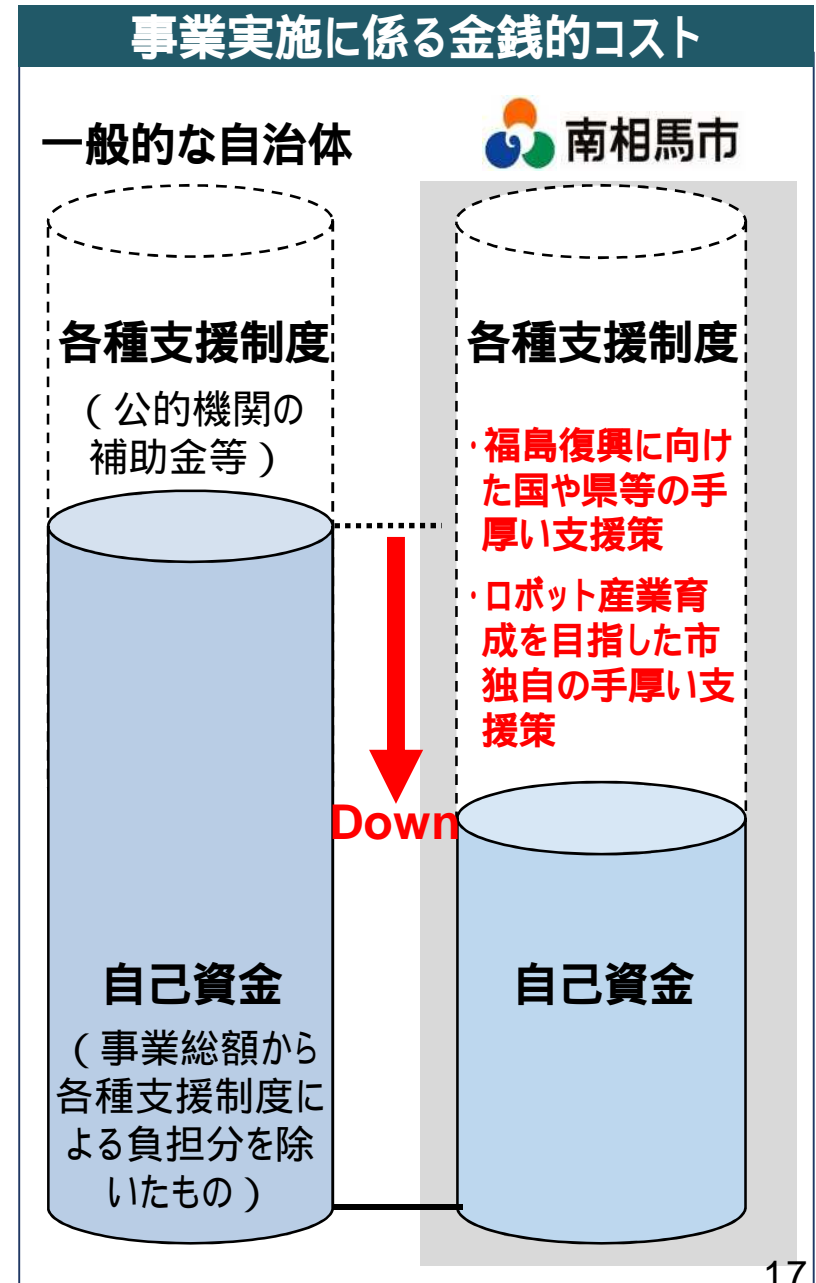
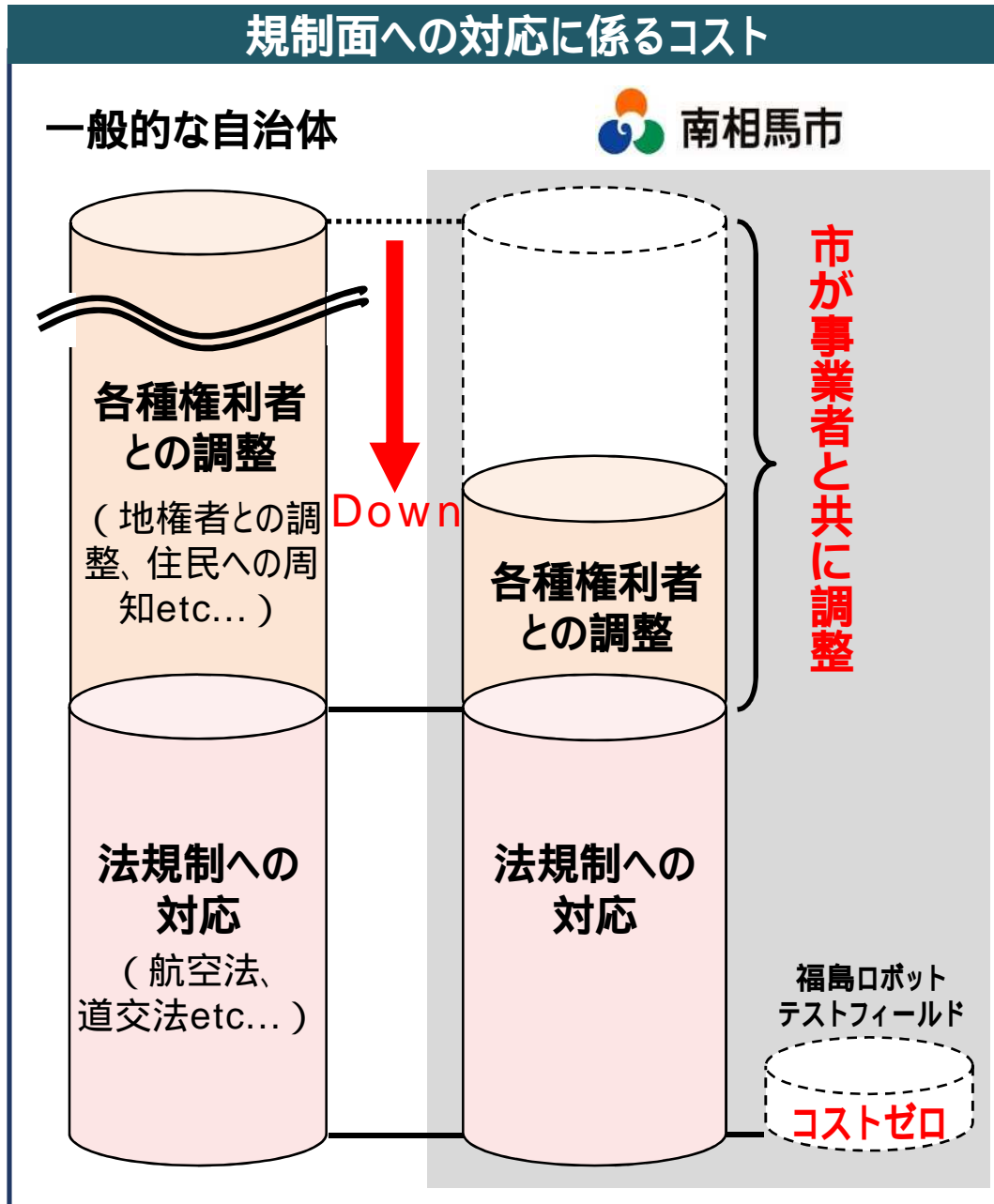
【相談・調整先】
 祭の実行委員会 所轄警察
 市観光部局

福島ロボットテストフィールド

世界に類を見ないロボットの実験場

【調整先】
 特になし

【参考】コスト面から見た実証環境としての南相馬市の優位性



【参考】市内における主なロボット関連実証の例

事業者名	実証概要	時期	フィールド
自律制御システム研究所	[日本初]自律飛行のドローンで、沿岸部を飛行し、12 km 先の海水浴場に荷物を届ける長距離配送実証。	2017.1	沿岸空域、海岸
TEAD	[日本初]自律飛行ドローンで、農薬散布をする実証。	2017.9	大豆畑
楽天	[日本初]自律飛行ドローンで、市街地のコンビニから郊外の集落センターまで商品を届ける実証。週2回、半年間実施。	2017.10 ~ 2018.3	市街地上空 (小高区)
銀座農園 ユニリタ	自律型農業ロボット開発のため、クローラー型ロボットの走行実証、ハンド型ロボットの果樹収穫実証。	2018.4 ~	果樹園(梨)
日本郵便	[日本初]完全目視外飛行ドローンで、市街地の郵便局から隣町の郵便局に荷物を届ける実証。週3回、半年間実施。	2018.10 ~ 2019.3	市街地上空 (小高区 ~ 浪江町)
日本郵便	自動配送ロボットが市営団地の住民に荷物を届ける実証。	2019.1	市営団地
スペースインターテイメント ラボラトリー	水上を滑走路とした飛行艇型ドローンの飛行実証。2019年3月から月1回ペースで実証を重ね、機体の開発を進める。	2019.3 ~	溜池
クフウシヤ	お祭の直後で、交通規制が解除される前の県道を使用し、自動追従ロボットの公道走行実証。	2019.7	市街地公道
西武造園、西武 緑化管理、ハスク バーナ	自動芝刈りロボットを使用し、市の海浜公園の芝生の管理を行う実証。	2019.7	海浜公園
N E D O	29のドローン事業者が、ドローン運行管理システムに接続し、1時間、1平方kmに100フライト以上の飛行させる実証	2019.10	福島ロボットテスト フィールド

【参考】市内における主なロボット関連実証の例

市内での実証などの取り組み



日本郵便 補助者なし目視外飛行での配送 (小高郵便局～浪江郵便局)



SEL 飛行艇型ドローン実証(唐神溜池)



クワフシヤ 運搬ロボット実証(市内公道)



ハスクバーナ 草刈りロボット実証(市内海浜公園)

ロボット関連の主な取り組み(2015～)



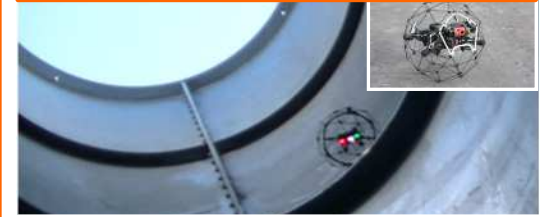
災害対応時のドローンの活用



ドローンを活用したクラウドGIS広域災害情報支援社会実証 (大原地区)

令和元年10月に発生し各地で大きな被害をもたらした東日本台風。南相馬市からの協力要請により、(株)テラ・ラボ、(有)ワインディング福島、(株)eロボティクス福島、(株)日本環境調査研究所、(株)ゆめサポート南相馬、(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構の6社が一丸となり、ドローンによる被害調査を実施しました。被害の状況や原因、二次災害の危険性等が明らかになり、この結果を復旧や防災に役立てています。

福島ロボットテストフィールドでの実証



ブルーイノベーション 試験用プラント内部での屋内設備点検ドローン試験



テラ・ラボ 固定翼無人航空機実証



東京大学ほか ステレオカメラによる滑走路と異物検知試験



eロボティクス福島ほか 三次元空間の情報収集用ドローン隊列飛行

【参考】南相馬市におけるロボット関連産業を始めとする新産業の集積

- 2019年以降、福島ロボットテストフィールドを核に、南相馬復興工業団地、南相馬市産業創造センターを含め、ロボット関連産業を中心に延べ35の事業者が短期間で集積。
- 行政、ロボット関連産業の地域コミュニティ、施設管理者を含め、地域一体で新産業を創出。

南相馬復興工業団地

- ・福島ロボットテストフィールドに隣接する市の工業団地。(2019年8月～)
- ・2事業者が立地を表明。



南相馬市産業創造センター

- ・市のインキュベーション施設（貸事務所・貸工場）。(2020年7月～)
- ・12事業者が入居。



南相馬ロボット産業協議会

- ・製造業などの地元事業者を中心に、64社で構成されるロボット関連産業の地域コミュニティ。(2016年～)

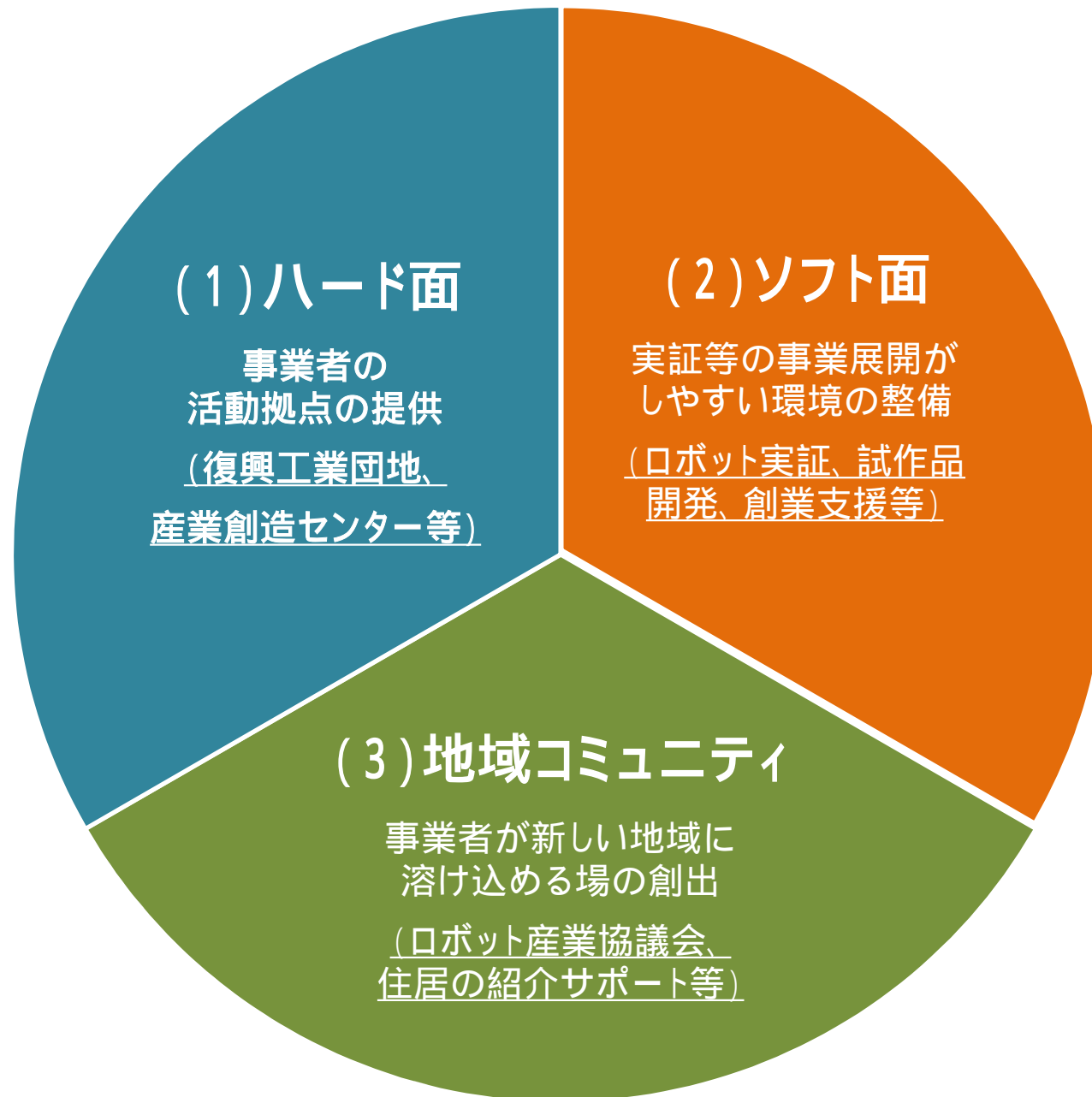


福島ロボットテストフィールド

- ・世界に類を見ないロボットの実験場。
- ・21事業者が入居。(2019年9月～)

・具体的な取組み概要

南相馬市における事業者向けの伴走支援の全体像



工業団地の概要

- ・着工年度：平成27年度
- ・完了年度：令和元年度
- ・敷地面積：69.1 h a
うち約50 h aを福島ロボットテストフィールド用地として提供
- ・提供可能面積：12.4 h a
(うち残面積：3.1 h a)
- ・提供方法：賃貸 (136円 / m² / 年)
- ・設備等：上水道 100 t / 日
工業用水 1,000 t / 日
電力 (高圧) 6,600 V

立地にあたっては、国の自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金に加え、市独自の立地助成金 (最大2億円) も活用可能であり、工場設置にかかる初期投資費用の大幅な軽減が可能。

条件 (対象者、対象行為、補助率等)

賃貸

市



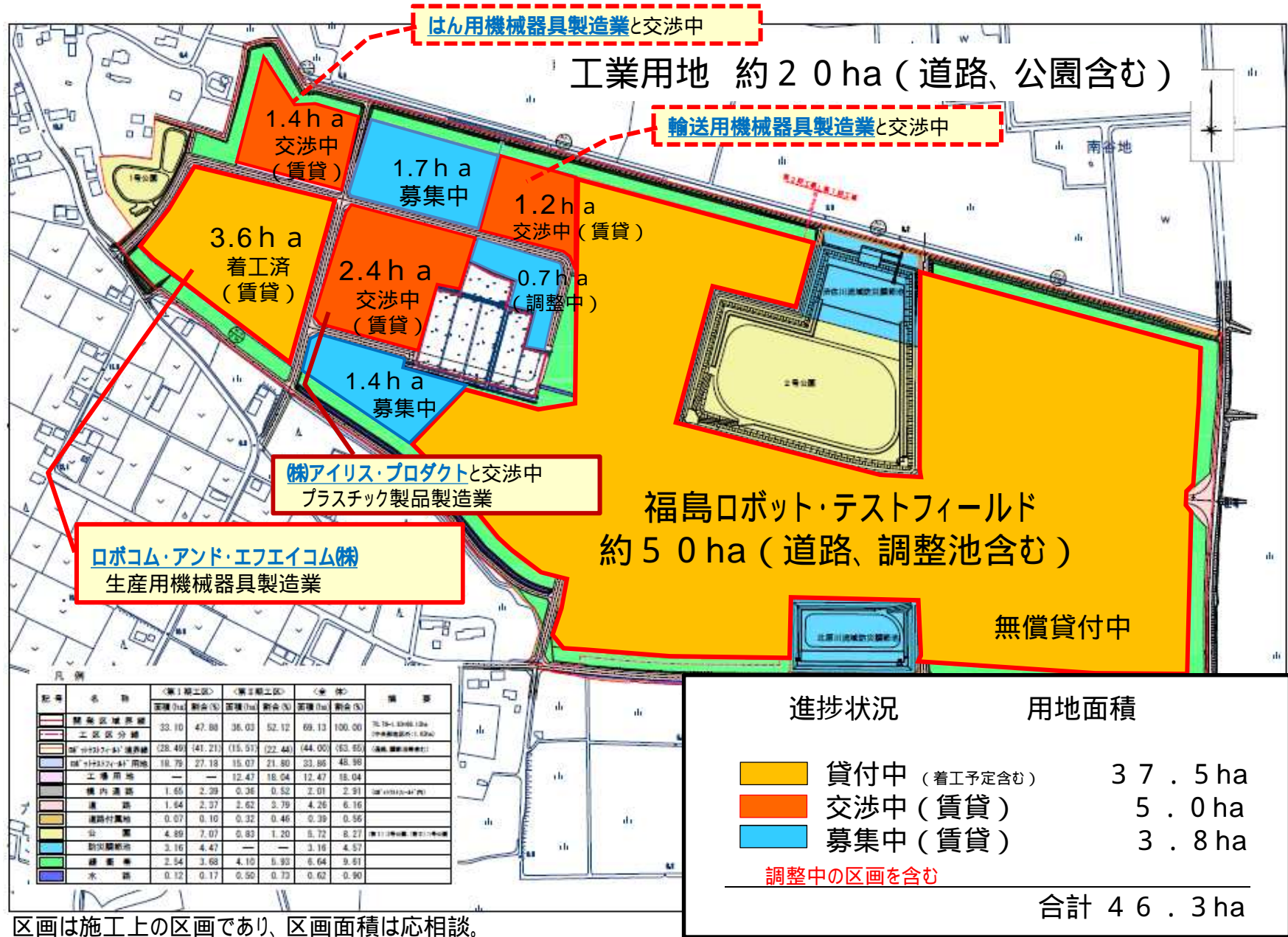
民間企業

工業団地の位置等



復興工業団地への進出状況（2020年9月17日時点）

（1）関係



産業創造センター（A棟・B棟）について

（1）関係

産業創造センターの目的

事業目的・概要

- 令和2年春に全面開所となった福島ロボットテストフィールドや市内各所でのロボット関連実証を始め、本市における様々な活動の拠点を整備。
- 現在運営中の新規産業創造センター（B棟）に加え、新たにA棟を整備し、「産業創造センター」として一括で運用。
- 施設の提供に留まらず、創業・起業支援、入居者と地元事業者等との交流等を含むソフト支援を通じた入居事業者の支援及び市内産業の発展を目指す。

施設の位置



施設概要

（1）産業創造センター（A棟、B棟）

[A棟]

- ・貸事務所8室（55m²/室）、貸工場4室（150m²/室）、管理事務所、会議室等を整備。

[B棟]

- ・貸事務所8室、会議スペースを整備。



（2）入居者へ提供するサービス

入居者等の支援のため、指定管理者により以下のサービスを展開する。

- ・各種セミナー、入居者の経営サポート
- ・入居者へのニーズの聴き取り等を実施し、地元事業者や金融機関等とのマッチング
- ・入居者間や入居者と地元事業者等との交流会
- ・対外的な情報発信
- ・その他インキュベーション施設機能、シェアードサービス機能の提供 等

【参考】産業創造センターA棟の利用料金

(1) 関係

施設区分	面積	単位	利用料金
工場（1～4）	145.34m ²	1月	206,800円
事業所（1）	57.53m ²	1月	81,900円
事業所（2・3）	55.9m ²	1月	79,600円
事業所（4・5）	57.53m ²	1月	81,900円
事業所（6・7）	55.9m ²	1月	79,600円
事業所（8）	57.53m ²	1月	81,900円
会議室	83.53m ²	1時間	500円

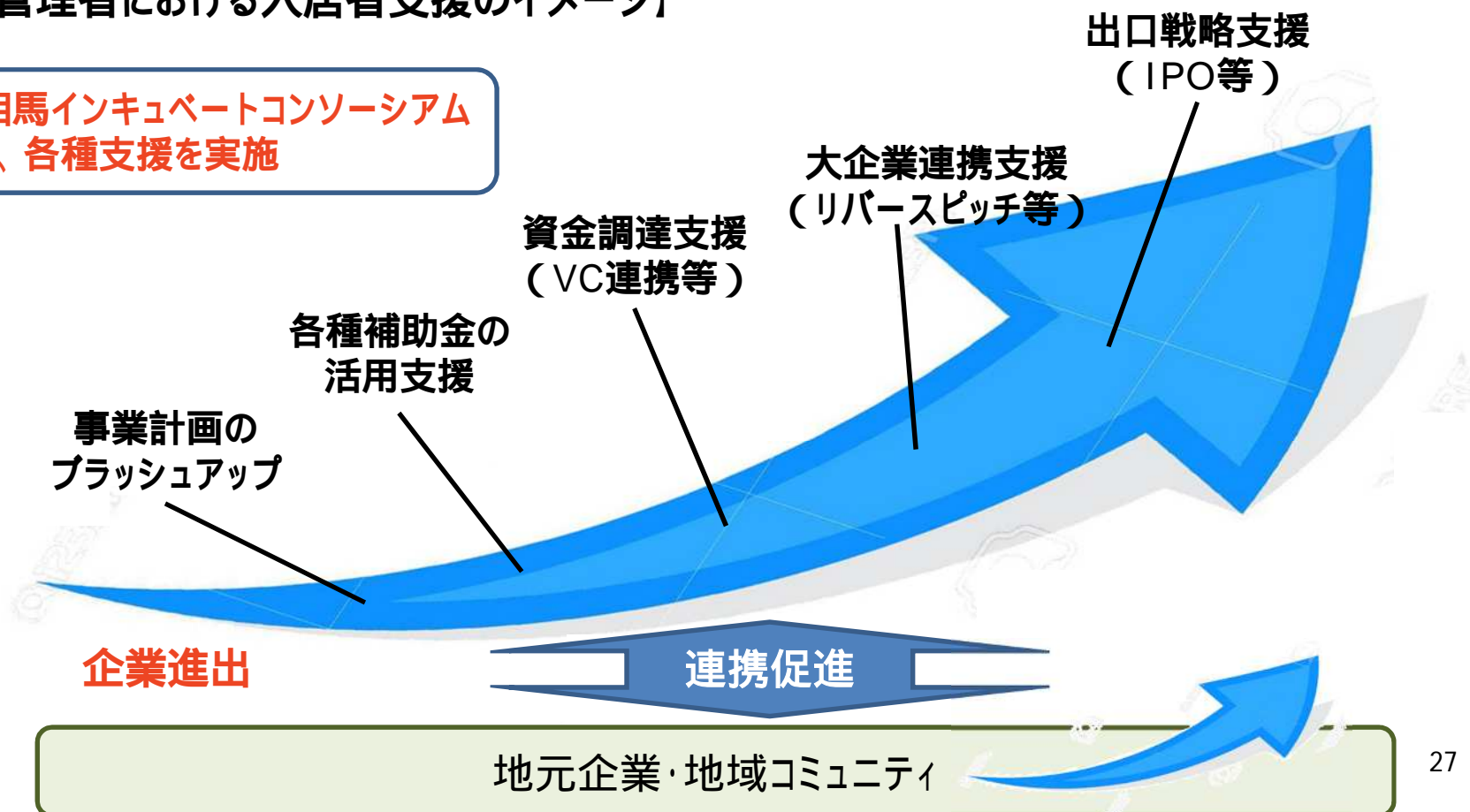
指定管理者における入居者支援・地域経済の活性化

(1) 関係

- 産業創造センターは、指定管理者による施設管理に留まらず、入居者に対するインキュベーション機能、シェアードサービス機能の提供を実施。
- 新産業の創出に向け、地元企業との連携促進に加え、大企業、投資家等との連携機会の創出など、企業の成長段階を踏まえた支援策を提供。

【指定管理者における入居者支援のイメージ】

南相馬インキュベートコンソーシアムにて、各種支援を実施



産業創造センターの指定管理者の概要

(1) 関係

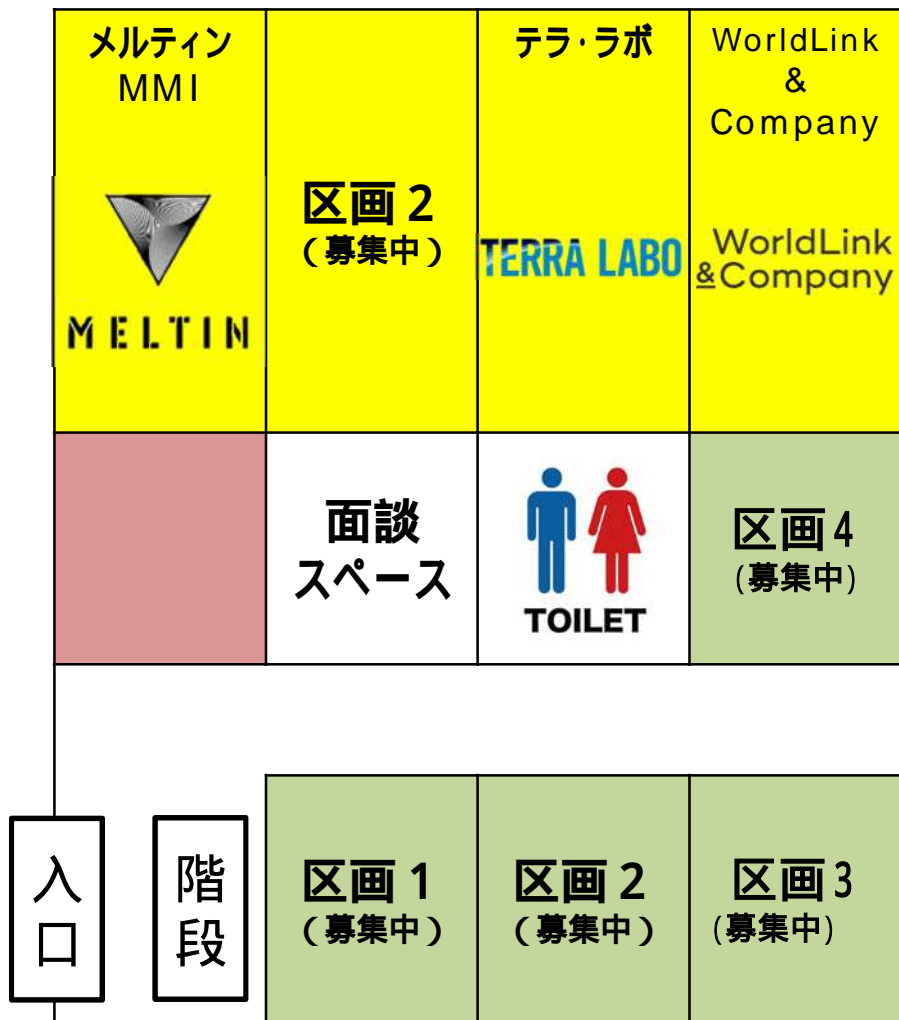
- 株式会社ツクリエ、特定非営利活動法人福島県ベンチャー・SOHO・テレワーカー共働機構相双支部、株式会社ゆめサポート南相馬の3者により、南相馬インキュベートコンソーシアムを組織。

構成企業・団体名	概要・主な実績	指定管理者としての役割
ツクリエ	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都に本社がある企業支援サービスを展開する企業。 ・首都圏の自治体等のインキュベーション施設（STARTUP HUB TOKYO等）を複数運営するとともに、自主施設も含め、起業支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での大手企業等との交流企画 ・入居事業者の首都圏における販路開拓支援 ・出口戦略の策定支援
福島県ベンチャー・SOHO・テレワーカー共働機構相双支部	<ul style="list-style-type: none"> ・福島県のインキュベーション施設（福島県中小企業振興館起業支援室）を運営。 ・南相馬市内では、主にIT系の起業支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT関連ベンチャー企業の支援業務
ゆめサポート南相馬	<ul style="list-style-type: none"> ・南相馬市の産業支援センター。 ・市内事業者の経営支援や新規創業に関する相談業務を実施しており、年間延べ450件超の相談実績をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の維持管理業務 ・入居事業者の事業支援 ・市内事業者と入居事業者との交流支援

産業創造センターA棟の入居状況 (2020.9.1 ~)

(1) 関係

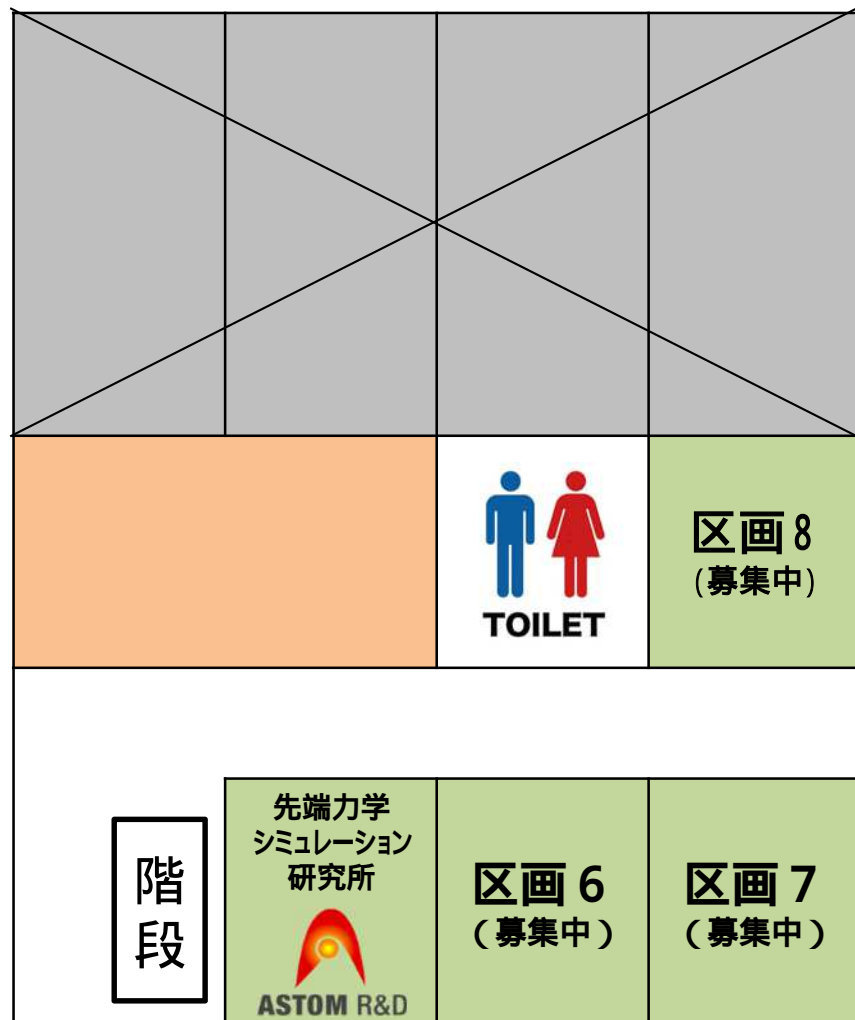
【1F】



工場
スペース
145.34m²

事業所
スペース
約56m²

【2F】

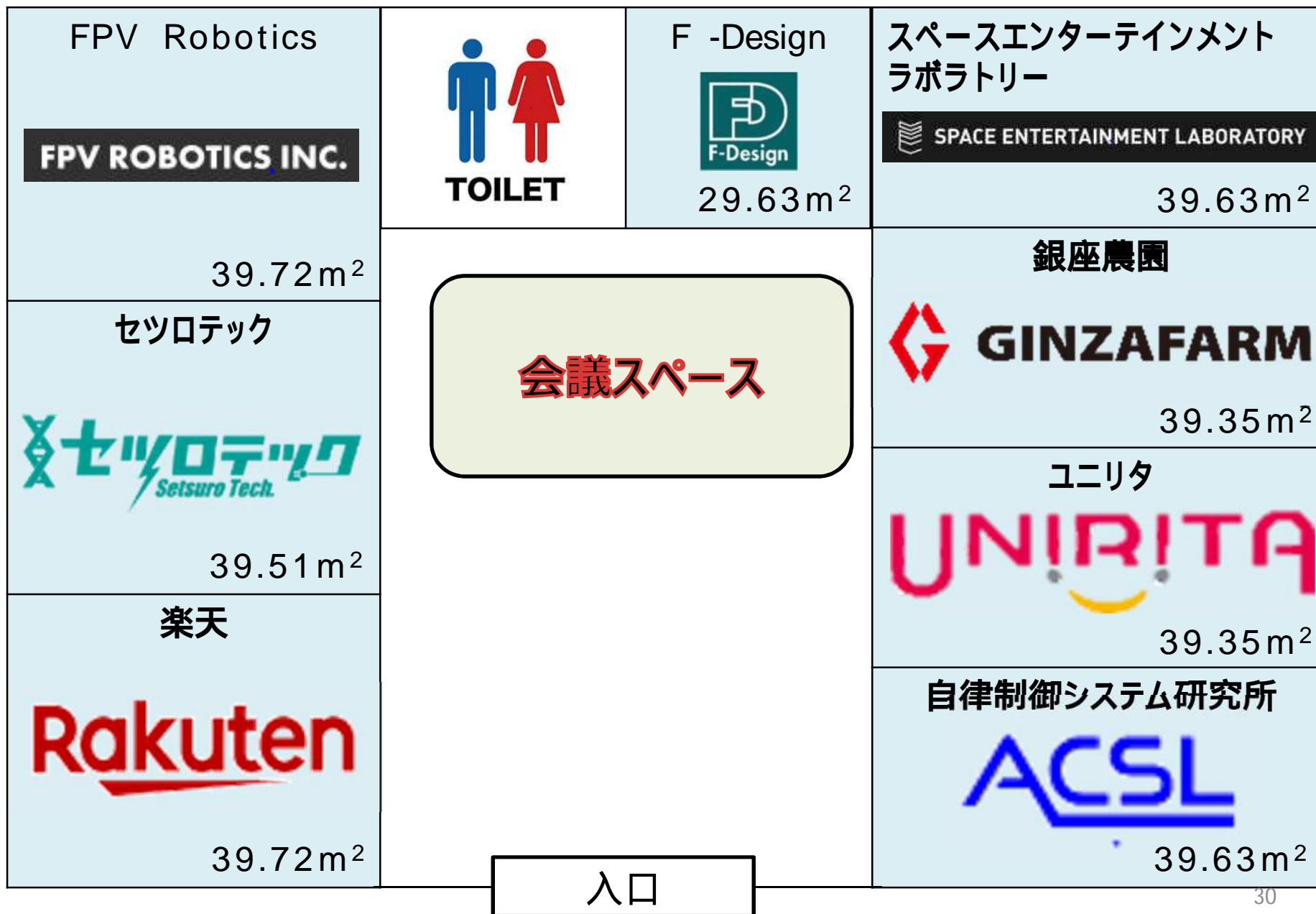


事務所
スペース

会議
スペース
83.53m²

産業創造センターB棟の入居状況（2020.7.1～）

(1) 関係



南相馬市東京支所の概要

- 本所は、**首都圏を中心に本市に新たな企業や創業者等呼び込むため**、企業立地や起業等に必要な支援策の情報発信等を行い、迅速かつ円滑な産業集積やベンチャーの排出、人材誘導の推進を図ることを目的とする。
- 本年7月8日に、門馬市長の出席の下、開所式を行い、本格的に始動開始。

南相馬市東京支所の概要

1. 設置場所

一般財団法人日本立地センター内
(東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京
YWCA会館 8F)

2. 人員体制

係長1名・係員級1名の計2名
(月の半分程度駐在)

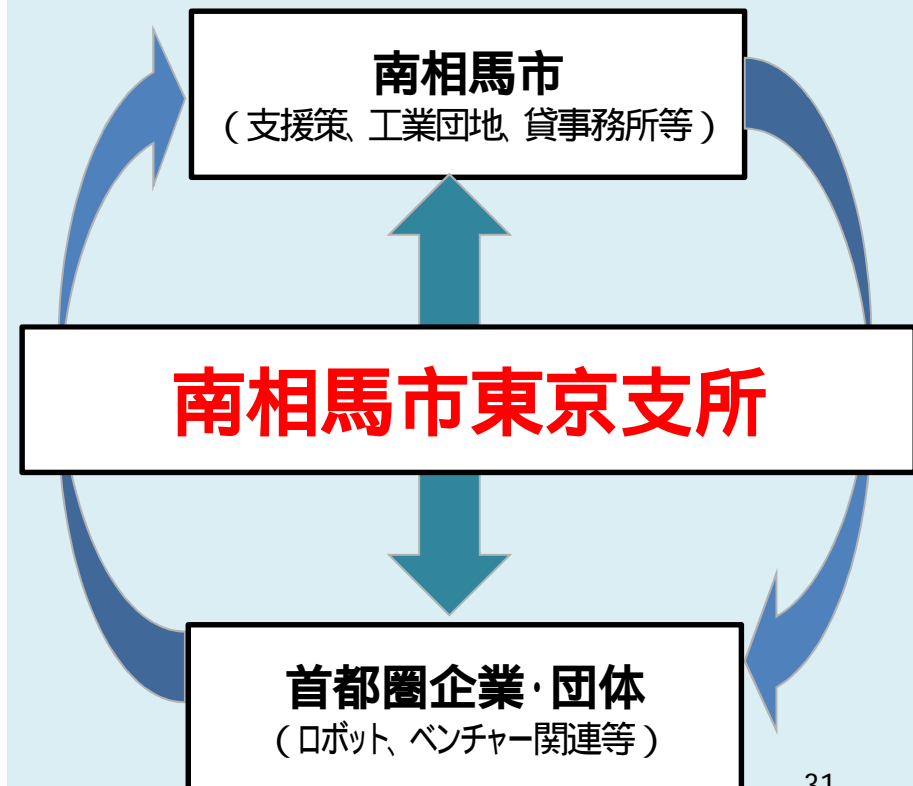
3. 設置期間

2020年4月1日～

4. 役割

企業・団体に対する情報発信。
企業・団体からの情報収集。
中央官庁・学術機関・主要研究機関等への支援策の提案等を通じた連携。

事業イメージ



創業者支援事業

令和2年度予算額 18,000千円（新規）

(2) 関係

事業の内容

事業目的・概要

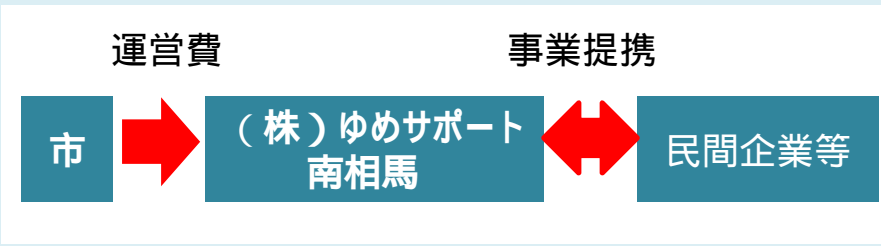
- 市内の産業活性化及び雇用確保のためには、新たな商品やサービスの提供等を行う創業者の存在が必要です。
- 産業の新陳代謝の役目を果たす、創業者が必要とする経費の負担割合を決めて、市内の産業活性化等の目的達成を目指します。（最大3年間）

要件（いずれにも該当すること）

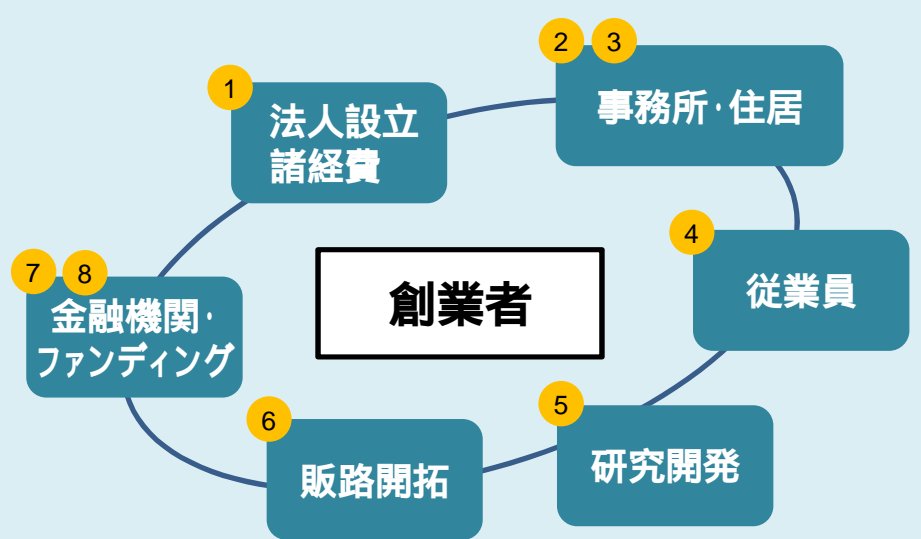
- 市内に事業所を開設し、操業開始時点で創業者が市内に住所を有していること。
- (株)ゆめサポート南相馬が設置する創業支援事業審査会で事業計画の承認を受けていること。

条件（対象事業費、ゆめサポ負担割合等）

【旧避難指示区域 8,000千円、3/4】
 【旧避難指示区域外 7,500千円、2/3】



創業に必要な対象経費の負担割合



- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 法人設立諸経費 | 2. 事務所・住居賃貸料 |
| ● 登記手数料・登録免許税 | ● 事務所・住居の契約賃貸料 |
| 3. 改装費 | 4. 雇用 |
| ● 操業開始までの改装工事費 | ● 新規雇用した雇用者の賃金 |
| 5. 研究開発費 | 6. 販路開拓 |
| ● 試作品等の開発費 | ● 印刷製本費、HP製作費・交通費用等 |
| 7. 利子補給金 | 8. クラウドファンディング手数料 |
| ● 金融機関へ支払う利子額 | ● クラウドファンディングを利用した際の手数料 |

【旧避難指示区域 ゆめサポ3/4・事業者1/4】
 【旧避難指示区域外 ゆめサポ2/3・事業者1/3】

ロボット実証実験支援事業助成金

新型コロナウイルス感染症対策

(2) 関係

令和2年度補正予算額 14,000千円 16,000千円 (2,000千円増額)

事業の内容

事業目的・概要

- ロボット産業振興を迅速かつ効果的に推進することを目的に、市内でのロボット実証実験を行いやすくするため、ロボット実証実験に要する経費の一部を助成。

補正予算の目的・概要

- 市内に進出した事業者等が、新型コロナウイルスの感染拡大により、実証実験の中止・延期を迫られている。今後、経済活動が通常に戻った際に、進出事業者等の市内での実証実験の機会を確保・拡大することで、市内経済の活性化を図る。

助成要件（いずれにも該当すること）

- 市内を含む地域で実証実験を行うこと。
- 市と事前に実験に関する合意書を締結すること。
- 市のロボット政策の情報発信に資する事業、市内の人材育成に資する事業などを実施すること。

条件（対象者、対象行為、助成率等）

- 助成率 1/2以内 3/4以内
助成上限1回あたり 20万円 30万円
1事業者あたり年間 60万円 90万円まで利用可能
- 市とロボットに関する研究開発や人材育成、地元企業連携などについての協定を締結した企業等は
補助率 2/3以内 4/5以内 助成上限200万円(年間)



事業イメージ

助成対象経費

- 交通費（市までの電車代・飛行機代等）
- 宿泊費（市内ホテルの宿泊代等）
- 通信運搬費（ロボット等の運送料等）
- 賃借料（レンタカーの賃借料等）
- 委託料（ドローンオペレーターの外注費等）
- 消耗品（実験に使用する消耗品）
- 印刷製本費（公開実験の配布資料等）

活用事例：

- 衛星通信を活用した長距離無人航空機の実用化に向けた実証の実施。



基盤技術産業高度化支援事業補助金

新型コロナウイルス感染症対策

(2) 関係

令和2年度補正予算額 16,000千円

23,000千円 (7,000千円増額)

事業の内容

事業目的・概要

- 市内の製造業者の皆様が、基盤技術産業の高度化や大学等との連携強化により、本市の産業振興に資する、試作品等開発の経費の一部を補助。

補正予算の目的・概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大が防止され経済活動が通常に戻った際、市内の製造業者が出遅れることなく活動を再開し、自社製品の開発促進、売上確保につなげるよう支援を強化することで、市内経済の活性化を図る。

補助要件（いずれにも該当すること）

- 市内製造業者であること。
- (株)ゆめサポート南相馬 が開発等をコーディネートすること。
南相馬市の産業支援センター

条件（対象者、対象行為、補助率等）

- **補助率 1 / 2 以内** **3 / 4 以内**
 - **補助上限500万円** **600万円**
- 国等の試作品開発関連の補助を受ける場合は、国等の補助金の補助対象となった事業経費のうち、補助残額分の**3 / 4 以内**。



事業イメージ

助成対象経費

- 試作品等開発のために要する経費（機械装置費・原材料費、人件費など）

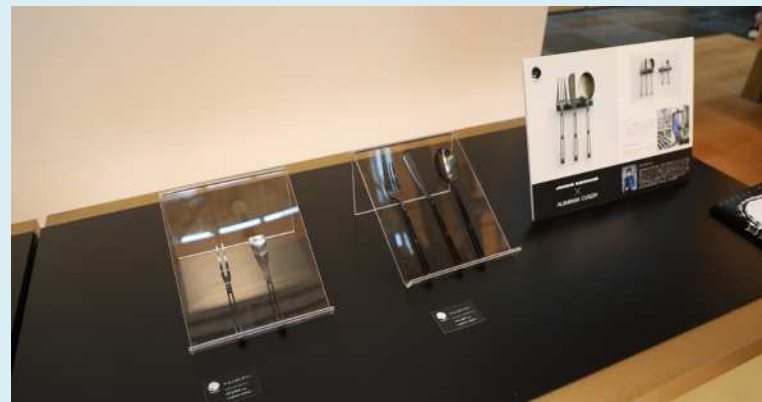
【参考】併用可能な制度

地域復興実用化開発等促進事業補助金(県)

- ロボット、エネルギー、リサイクル、農林水産業、環境回復・放射線、医学などの研究開発経費を補助
- 補助率2 / 3 補助上限7億円
- 補助対象経費（施工工事費、機械設備費、調査設計費、人件費、材料費、外注費、委託費等）

活用事例

- 金属機械加工の高度な技術を活かした新分野への挑戦



中小企業販路拡大支援事業補助金

新型コロナウイルス感染症対策

(2) 関係

令和2年度補正予算額 4,000千円 9,000千円 (5,000千円増額)

事業の内容

事業目的・概要

- 市内中小企業の競争力向上による取引先の確保・販路拡大を目的として、全国規模の展示会・商談会・見本市等に出展する経費の一部を補助。

補正予算の目的・概要

- 新型コロナウイルスの感染拡大が防止され経済活動が通常に戻った際、市内の中小企業が出遅れることなく活動を再開し、展示会等のイベントへの積極的な参加を促し、販路拡大による売上確保につなげるよう支援を強化することで、市内経済の活性化を図る。

補助要件

- 出展小間料が1小間あたり10万円以上であること
- 販売が主目的ではないこと
- 自社が主催していないこと

条件(対象者、対象行為、補助率等)

- **補助率 1/2以内 3/4以内**
- **補助上限 国内 50万円 100万円**
海外 100万円

原則、同一年度内の申請は一事業所につき1回



事業イメージ

補助対象経費

- 出展料、装飾料、賃借料、通信運搬費、旅費、印刷製本費、通訳・翻訳料、人件費、委託料

活用事例:

- BIZ SAITAMA さいたま市産業交流展出展
- ジャパンドローン展への出展等

展示会イメージ



出典: Japan Drone2020ホームページ



出典: BIZ SAITAMA2019ホームページ 35

ロボット機器導入支援事業

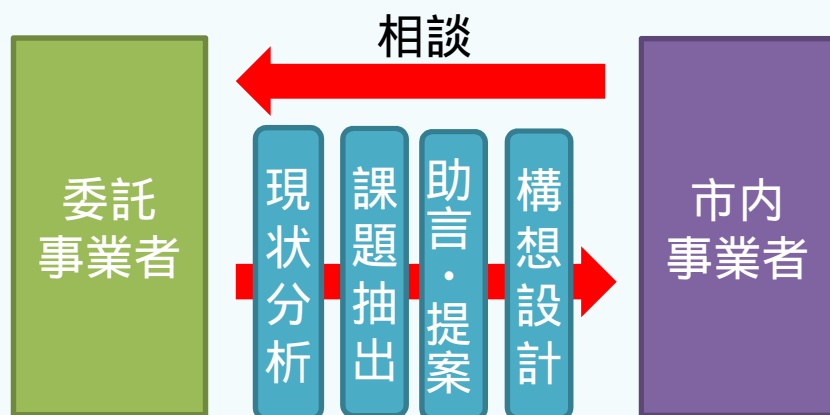
新型コロナウイルス感染症対策

(2) 関係

令和2年度補正予算額 10,000千円（新規）

- ロボットを工場、飲食店、宿泊施設などの現場に導入する場合、個別の作業環境、業務の流れ、人との作業分担など、様々な要素を考慮することが重要。
- こうしたことから、withコロナ/afterコロナ、生産性向上を目指す市内事業者の現状を整理・分析し、助言・提案等を行いロボット導入を支援する。

事業イメージ



○市内の事業者を数ヶ所ピックアップし、具体的なロボット導入に向けた検討を実施。

○支援の成果は、事例集として後日公開。

ロボット導入の例



○「withコロナ」時代を見据えた「非接触」のサラダバーを実現。レストラン内で自動搬送ロボットを活用。

（出典：株式会社QBIT Robotics HP参照）

ロボット機器導入促進事業補助金

令和2年度補正予算額 4,000千円 6,000千円 (2,000千円増額)

新型コロナウイルス感染症対策

(2) 関係

事業の内容

事業目的・概要

- 市内ロボット産業の振興を図るため、ロボット機器の導入に取組む市内事業者を支援。

補正予算の目的・概要

- 新型コロナウイルス感染症をきっかけに、人手不足への対応、事業環境の効率化等の必要性が改めて共有されたことに伴い、市内事業者のロボット機器の導入を促進し、生産性の向上、事業の強靱化による、市内経済の活性化を図る。

補助要件 (いずれにも該当すること)

- 購入者は、市内事業者であること
- 購入対象となるロボット機器は、南相馬ロボット産業協議会の会員が開発、製造に携わっているもの

条件 (対象者、対象行為、補助率等)

- 補助率 1/2以内 3/4以内
補助上限 100万円 150万円
- 同一年度内の申請は一事業所につき1回



事業イメージ

〈対象となるロボット機器の例〉

ドローン

パワーアシストスーツ

見守り支援
ロボット機器



ほか、市長が特に認めるロボット機器 (試作品含む)

活用事例 :

- 農薬散布ドローンやポート、測量用ドローンを導入し、人手不足への対応、効率化や生産性向上を図る。
- 医療や介護現場にパワーアシストスーツを導入し、負担軽減を図る。 etc.



【参考】南相馬市の補助制度と併用可能な国・県の支援制度

(2) 関係

【国】 自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金

- 被災者の「働く場」を確保し、生活基盤やなりわいを取り戻すために、製造・サービス業等の立地を支援。

(補助対象経費)

- 工場、物流施設、試験研究施設、機械設備、店舗、社宅、その他施設等

(補助率等)

- 避難指示区域、解除後1年までの避難解除区域は、中小企業3/4以内、大企業2/3以内
- 避難解除区域は、中小企業2/3以内、大企業1/2以内

【県】 地域復興実用化開発等促進事業費補助金

- 福島県浜通り地域において実施される福島イノベーション・コースト構想の重点分野に係る研究開発や実証など実用化・事業化に向けた取り組みを支援。

(補助対象経費)

- 施設工事費、機械設備費、調査設計費、人件費などの直接経費
- 間接経費等

(補助率等)

- 中小企業2/3 (上限7億円) 大企業1/2 (上限7億円)

南相馬市

【県】 地域課題解決型起業支援事業補助金

- 「社会性」などの観点を持って取り組む社会的起業家から事業計画を募集し、優秀な事業計画を提出した者に対して支援。

(補助対象経費)

- 人件費、通信運搬費、使用料及び賃借料、物品購入費、修繕費、旅費、交通費等

(補助率等)

- 補助対象経費の1/2を補助 (上限200万円)

【県】 福島県ロボット関連技術実証等支援助成金

- 福島県内の中小企業が、福島ロボットテストフィールドを使用して実証試験、性能評価試験、操縦訓練等を行った場合、使用料の一部を支援。

(補助対象経費)

- 福島ロボットテストフィールドの設備及び附属設備 (研究棟及び同附属設備を除く) の使用料負担額等

(補助率等)

- 福島ロボットテストフィールドの使用料に対して1/2以内 (同一事業者に対して、限度額30万円。)

高い技術と意欲を持った技術者集団

- 会員数 64事業者
- 金属加工、組立、機械設計など幅広い分野での技術協力、部品提供などが可能
- 特別チームを結成し、WRS2020福島大会出場を目指してクローラーロボットを開発中



進出企業との連携事例が多数誕生

- 飛行艇型ドローン開発企業に尾翼の部品を提供
- 自律走行型掃除ロボット開発企業に技術協力
- 回転翼ドローン開発企業と共同で獣害対策の研究・ロボット開発を実施



進出企業との交流をさらに後押し

- 2019年12月クリスマス交流会や2020年2月のバレンタイン交流会を実施し、多数の会員企業と進出企業が参加。
- 今後も定期的に交流イベントを実施し、企業同士の協力・連携を後押し！



南相馬市ロボット産業セミナー

(3) 関係

- 南相馬市では、毎年、東京において、福島ロボットテストフィールドの活用事例の紹介などを行うセミナーを実施（昨年度は、台風19号の影響により中止）。
- 平成30年度は、政府関係者、首都圏のロボット関連事業者など、約200名にご参加頂き、南相馬市に進出した事業者との交流や情報交換を実施。

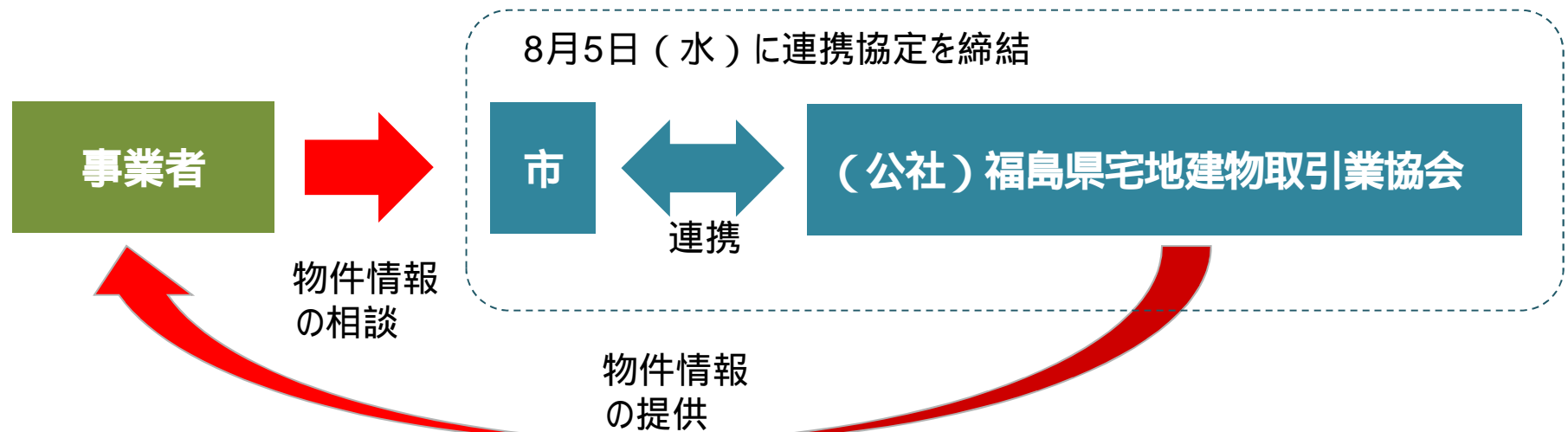


南相馬市内の住居探しのサポート

(3) 関係

- 南相馬市で活動をする際の従業員等の住居探いをサポート。周辺の店舗状況、福島ロボットテストフィールドからの距離、間取りなど、事業者のニーズに合った住居探いを福島県宅地建物取引業協会と連携して対応。

【住居探しのサポートのイメージ】



これまで、南相馬市に進出した事業者からの相談に応じ、(公社)福島県宅地建物取引業協会の協力の下、事業者ニーズを踏まえた市内アパート、地元不動産屋などを紹介。

小中学生のロボット教育の推進

(3) 関係

- 2019年は、市内15校の小中学校において、プログラミングによるドローン体験、ドローンによる空撮授業、福島ロボットテストフィールドの見学など、最先端の技術を用いた授業を実施。
- ドローンを活用した授業については、2019年8月にキッズデザイン賞を受賞。
- 市とロボット関連人材育成に関する協定を締結しているNEDOの協力により、2019年10月に市内3校82名の小学生に福島ロボットテストフィールドの見学会を実施。見学会では、総合管制室からドローン実証試験の見学等を実施。

キッズデザイン賞の受賞



NEDOによる市内小学生への人材育成



- 福島ロボットテストフィールド、市内に進出したロボット関連事業者の取組等を紹介するために、**南相馬市民を対象とした見学会**を開催。
- 施設を巡る見学ツアー、各種ロボットの展示、VRなど最新技術の体験に加え、クイズ大会などのイベントも実施し、夏祭りのような子供から大人まで楽しめる見学会を企画。**当日は約370名が出席。**

ロボテス見学会2020の概要

1. 開催日時

令和2年8月22日(土) 10:00~15:00

2. 実施場所

福島ロボットテストフィールド
(南相馬市、浪江町の各フィールドで実施)

3. 主な内容

各種ロボット展示、VR体験、飲食ブース 等

4. 主催者等

主催 : 南相馬市、浪江町
共済 : (公財)福島イノベーション・コースト推進機構

展示されるロボットの例

○南相馬市に進出したロボット関連事業者の製品(掃除ロボット、ドローン、クローラー型ロボット等)を展示し、ロボットと人が共生するイメージを共有。



市広報紙を活用した事業所の紹介（みなみそうまの産業キラリ） (3) 関係

- 市が毎月発行する広報紙「広報みなみそうま」において、市内事業者の「キラリ」と光る独自の技術や製品について取材した記事を掲載し、市民の方々に企業の情報を周知。
- 発行部数約19,000部。各世帯への直接配布、公共施設への設置などを通じて、本市に進出した事業者の取組みなどを紹介。

【市の工業団地に進出をした事業者を紹介】



■南相馬でチャレンジ
 (株)井部製作所は、昭和41年に東京都目黒区で創業。工業と南相馬に工場を構える精密機械部品製造の会社です。市の企業誘致に応じて南相馬に進出し操業を開始したのは平成29年。当初は不安もあったそうですが、半導体分野での受注が好調で、良いスタートが切れたそうです。

■緻密さが社会を支える
 作っている製品は航空機や研究所、医療などの多分野で使われており、I・Hや口立など、多くの企業から受注を受けています。一例を挙げると、容器の中を真空にして物



ターボ分子ポンプ部品

質の組成や構造などを測定する分析装置の部品などで、緻密さが求められます。私たちが直接目にする機会はありませんが、目に見えない所で生活を下支えしていると言えるでしょう。

航空宇宙やエネルギー、ロボットなどの分野に注力しており、井部社長は「南相馬が復興するに当たり力になれる」と笑顔で語りました。

(株)井部製作所南相馬工場
 精密機械部品製造業

住所 原町区雫字蛭沢175-3
 問合せ ☎1066

vol. 10

代表取締役
 井部 良則さん

【ドローン事業に取り組む事業者を紹介】



■伝統と復興への思い
 相馬野馬追に出場するなど、伝統と誇りを重んじているのは、ワインディング福島の新信代表取締役です。震災直後は、熟練の技術が失われることを防ぐため、千葉県に工場を移転。その後、古里復興への思いを胸に原町区に工場を新設し、市内での操業を再開しました。

■新たな可能性に挑戦
 産業用モーターの市場拡大のため、約4年前からドローン産業に進出。農業散布や生態調査用のドローン事業の開発と、ドローンの利活用などに挑戦しています。



清信代表は「ドローンが持つ未知の可能性に期待している」と意気込みます。

■手作りの先端技術
 機械による大量生産ではなく、顧客の細かなオーダーに応じて手作業で精細に調整する少量多品種のものをづくりを成し遂げながら、先端テクノロジーをけん引します。

有限会社ワインディング福島
 産業用モーター製造業

住所 原町区北原字東原333-3
 問合せ ☎0233

vol. 05

代表取締役
 清信 正幸さん

SNSを活用したロボット関連情報の発信（ロボ in 南相馬）

（3）関係

- 南相馬市公式Facebook「ロボ in 南相馬」において、市内におけるロボット関連実証など、ロボット関連の取組みをタイムリーに発信。
- フォロワー数840人。市民、行政関係者、市内事業者など本市に関わりのある方にフォローいただき、シェア機能による情報の拡散などが発生。

【市内のロボット実証の様子を紹介】

ロボin南相馬
7月30日 16:46

【伝統文化と最先端技術のコラボ?!】
7月28日（日）、相馬野馬追の騎馬武者行列の熱気が冷めやらぬ中、追従型運搬ロボットを使った実証実験が行われました。
前を歩く人を認識して自動で追尾するロボットの、屋外での走行性能を確かめるため、騎馬武者行列が通った後に残される馬ふんを回収しながら、旧街道を約2キロを練り歩きました！
道ゆく人の反応も上々！多くの人にロボットのまち南相馬をアピールできました。
実験をおこなった株式会社クフウシヤは、開発中のお掃除ロボットに今回の実証の結果を活かしていくとのこと。



【地元企業との連携事例を紹介】

ロボin南相馬
8月7日 9:11

【5G実証実験に南相馬市発ドローン!】
飛行艇型ドローンを開発中の株式会社スペースエンターテインメントラボトリーが、NTTドコモが実施する5Gの実証実験に参加することになりました。同社は、南相馬市に拠点を置き、溜池や海上での実証実験を重ねています。
11月にグアムで実施される実証実験では、市内企業である有限会社協栄精機と、市内に工場を持つフジクラコンポジット株式会社が開発に関わる機体を使用される予定です。
市内に拠点を置くロボットベンチャー企業と、市内企業が協力して開発した機体が活躍する。こういった事例がどんどん生まれるように、南相馬市役所は全力で支援していきます!!... もっと見る

